

人口激減時代に上越市が生き延びる道 三浦展さんが市議会議員勉強会で講演

市議会は19日、『下流社会』（光文社新書）の著者として知られる三浦展（みうら・あつし）さんから講演していただきました。

三浦さんは高田出身の方です。講演のタイトルは、「社会デザイン」の視点から見た、人口激減時代に上越市が生き延びる方法」という長いものでしたが、講演のシユメでは、短くして「シン・ジョウエツ（上越市の将来像）」と短くされました。

三浦さんは、講演の冒頭、「聴いてもさっそく明日に役立つ話ではない」と言われましたが、私には、すぐに役立つヒントがいくつかの講演でした。前日、総務常任委員会で市の第7次総合計画についての議論をしましたが、この講演がもう一日早く行われたら良かったかもしれません。



かったのにと思ってたくらいです。

三浦さんは、いまの社会を、「どこにでも大型店、スーパーがあり、車に乗って出かけ、大量生産された商品を買って求める。子どもたちはと言えば、ゲーム、スマホに夢中になり、左手はスマホ型になってしまっている。肥満が増加し、生活能力が低下している。日本中が画一化、マクドナルド化、ファーストフード化した」などと指摘。そして、持続可能な社会になり、犯罪も増加したなどこのべました。

では、どうやってたら持続可能な、楽しいまちをつくれるのか。三浦さんは子育て、教育、娯楽、働く女性の居場所確保、空き家・空きビルリノベーション、歴史や伝統を大事にし、本来の意味の風土を大切にすることなどについて言及しました。

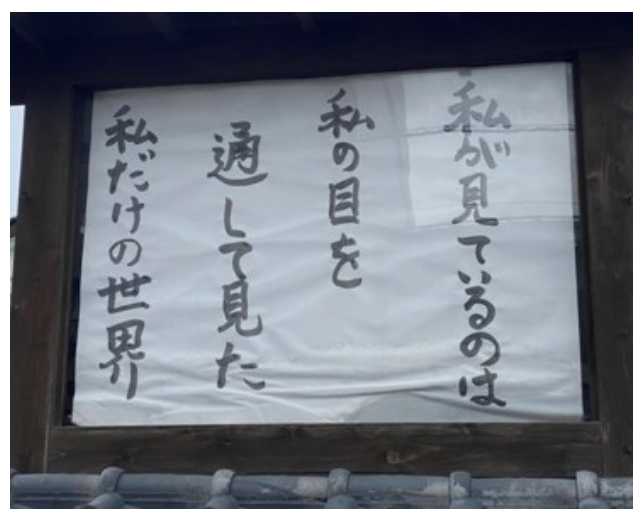
なかでも力を込めて訴えたのは少子化対策です。大都市圏から子育て世帯を集め、出生率は3.0をめざす。空き家・空き店舗はタダで貸し、子育て世帯はコマを無料にする。教育費も無料にし、教育水準を最高水準に引き上げる。リアルな自然体験、生活体験を重視し、生きる力を身につける。出生率2.9を超えた岡山県奈義町、2.3の長崎県平戸市等の実例をあげての説明は説得力がありましたね。そして三浦さんは、上越には山があって、川があって、

田園も海もある。いまある魅力だけじゃなく、新しい魅力も作り出してほしい。日本に1個しかないものをたくさん作ってほしいと訴えました。

講演は、国の経済などの政策との関連で問題を解明しないなど疑問に思うこともいくつかありましたが、独自の視点と分析はとても興味深く、持続可能な、楽しい「シン・ジョウエツ」をめざす気持ちかわいてくるものでした。『下流社会』を再読し、『ファスト風土化する日本』なども読んでみたいと思います。



【又マトラノオ】（再掲）サクラソウ科の多年草。漢字で「沼虎の尾」と書きます。草丈は40センチ～70センチ。地中に地下茎をのばしてどんどん広がっていきます。先日、町内会の草刈りで見つけました。花期は7月～8月です。花の色は白色。花言葉は「平静」「思いがけない」。写真は8月7日、吉川区代石にて撮影しました。



【聴信寺の掲示板】直江津は聴信寺の掲示板が替わりました。「私が見ているのは私の目を通して見た私だけの世界」。あたり前のことが書かれています。このあたり前のことを自覚することが大事ですね。



新潟市の関屋分水を視察

保倉川放水路整備促進議員連盟は22日、新潟市にある関屋分水資料館、操作室、信濃川水門、やすらぎ堤等を視察してきました。

信濃川の氾濫を防ぐために造り、1972年に完成した関屋分水を訪ねたのは初めて。大島区のいまの戸数よりも多い693戸の移転により、工事ができるようになったという話には驚きました。

資料館では工事に至るまでの経過等の説明を受け、操作室では実際の水門操作などについて教えてもらいました。イラストは操作室です。



No.2074 2022.8.28
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七二回

一枚板の橋

一枚の板が水路にかかっているのを見ただけで、こんなにも気持ちが高ぶると思いませんでした。

お盆の一日の夕方、市道代石小苗代線に車を止め、田んぼの風景を撮ろうと思ったときでした。前方に用排水路をまたぐ一枚の板があることに気がしました。

ここは市道から見ると、田んぼの畦も水路も一直線に見える場所です。この直線と田んぼの稲や青空とがうまくかみ合って美しい景観を作り出していました。

そこに直線と九〇度の角度で一枚の板がかかっている。写真を撮るためにはじやまになってもおかしくないのですが、じやまどころか、「いいなあ」と思いました。「水路をまたぐ、素敵なもの」として私の目に映ったのです。

私は、市道と田んぼの境に張ってある電気柵をまたぎ、板のかかっている場所をめざしました。歩数にして約七〇歩、だいたい四〇センチの場所にありました。

一枚の板がかかっているのを見つけたとき、すぐにそばまで行きたくなったのは好奇心というよりも、私をひきつける懐かしさを持っていたからです。

板は幅も広く、厚さもけっこうあります。一目で、「これはがっしりしている」と思いました。迷うことなく板の上に乗って、渡ってみました。危なげないので、スリル感はまったくありません。ただ、私の体重は八〇数キロありますので、真ん中あたりで少し沈みました。でも大丈夫でした。

私が吉川区の山間部、蛭場に住んでいた頃、山へ山菜採りに行くにも、田んぼに行くにも、畑に行くにも必ず丸木橋を渡らなければなりません。そこには釜平川（がまびろがわ）が流れていたからです。いずれの橋も杉の丸太数本でつくられていて、一部に平らな板を打ち付けてあるものもありました。丸木橋は移動のためには欠

かせぬものでした。一番切なかったのは、雨の日に稲を背負って橋を渡るときでした。川の流れば怖く、見ると足がすくみました。絶対見てはいけなかったのです。

今回、見つけたものは丸木橋ではなく、板を渡しただけのものですが、渡るときの慎重な気持ちは共通でした。

一枚板の橋を往復してから、私はいったん家に戻り、巻き尺を持って、もう一度板のところへ行きました。大きさをしっかりと測っておきたかったからです。板の幅は約三〇センチ、長さは三メートルでした。そして六センチの厚さがありました。

それにしても、こんなに素敵な橋を誰がかけたのだろう。そう思った私は、まず、小苗代で材木店を営んでいるFさんに電話をしました。こんなに大きな板を使っているからには、Fさんが何らかの情報を持っているに違いないと思ったからです。

ところがFさんには心当たりがないということでした。そうならば、朝早くからきめ細かく田んぼをまわっているOさんかも知れない。声をかけたら、「自分ではない。たぶん、しんたく（屋号）さんではないか。草刈りのときの移動に使っていると思うよ」と言われました。

Oさんの予想通りでした。「しんたく」さんへ行くと、「うちのです。小屋を作ったときの残った材料を持ってきて、かけたんです。うちはあそこに田んぼがいっぱいあるし、あれがあると、草刈りなんかで便利なんだわ」と言われました。

話を聞いて、なるほどと思いましたね。水路は一メートルほどの幅です。人間だけならジャンプすれば渡れる幅です。でも草刈り機などを持つと、そこはいきません。雨上がりの日、改めて一枚板の橋を渡ってみました。板には製材時にできた横のギザギザの滑り止めもある。たかが板と言うなかれ。渡るには、じつに便利な橋です。

五十嵐仁法政大名譽教授が地元で講演

頸城区出身の五十嵐仁法政大学名誉教授が21日、希望館で講演されました。

テーマは、「岸田政権の憲法破壊と戦争への道を阻むために」の先の参院選の結果とその分析、世界平和統一家庭連合をめぐる政治の闇、憲法破壊の新局面、今後の課題と野党共闘の再建について詳しく解説し、「市民と野党の共闘の意義を再確認し、共闘を立て直すことが大事だ」と訴えました。



鵜の浜の災害復旧工事視察

先日、大湊区の住民から、「鵜の浜の雨水幹線の吐口部の工事は原形復旧と聞いているが、お金をかけてもまた壊れるのではないか」という声が寄せられました。

市議会では昨年9月議会で関係予算（約1億4500万円）を可決し、今議会には補正予算も出ています。まずは現場を見てみよう、と、上野議員と共に現地へ行ってきました。これから詳しく調べますが、波が予想以上に強く、びっくりしました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月17日(水)	8月24日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.057	0.047
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053